

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792300036		
法人名	桂商事株式会社		
事業所名	グループホーム 文の里 (2階)		
所在地	大阪府大阪市阿倍野区文の里4丁目21-23		
自己評価作成日	平成23年5月16日	評価結果市町村受理日	平成23年9月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.osaka-fine-kohyo-c.jp/kaigosp/infomationPublic.do?JCD=2792300036&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成23年7月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気でご入居者様お一人おひとりが、今何をしたいのかを出るだけ把握し、その願いを叶えるよう日々努力しています。また、毎日笑顔で笑いのたえない雰囲気作りを努めています。また、すぐに出掛けた事を忘れてしまうかもしれないが、「今日は楽しかったね」と言って頂ける様、外出の機会を増やし、自然に触れて頂いたり、食べたい物や欲しい物を御自分で購入して頂ける機会を持っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、「のんびりと楽しい我が家へお帰りなさい」を理念に掲げ、利用者にとってホームが我が家と思ってもらえる様、一人ひとりの声を傾け、思いや願いを把握して実践出来るよう取り組んでいます。若い時代に培った今でも得意なことに携わり活躍できるような場面を作ったり、趣味の継続も支援しています。我が家で過ごしているのと同じ気持ちになってもらい自由に表現でき、家族のような温かな対応を心がけています。また、馴染みの人や場との関係が継続できるように、利用者の故郷の写真を飾ることで、思い出話が弾み、回想法としてもケアに活かされています。外出の機会も多く、普通の暮らしを大切に考え車椅子でもバスや電車を利用し出かけています。介護計画は、その人らしく暮らせるように利用者の言葉を用いて作成しており、統一したケアの提供に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいて「のんびりと楽しい我が家へお帰りなさい」をホームの第二の理念に掲げています。	法人の理念を基に、開設時に職員と話し合い、共有の思いを込めたホーム独自の理念を作り、玄関に掲示している。理念が日々のケアの中で活かされているかを常に振り返り確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々道で出会った時は、気軽に挨拶を交わし地域のサロンやふれあい喫茶に参加している。	自治会に加入し、回覧板を持って訪れたり、顔見知りの方と挨拶を交わしたり、地域のもちつき大会や行事にも積極的に参加している。ホームで開催の夏祭りには、地域に呼びかけホームを知ってもらおう機会にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方からの介護に対する相談や介護方法の助言を希望に行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を、実施している。	会議は、家族や女性部長、民生委員、地域包括支援センター職員、ホーム職員、法人の事務長が参加し、年2回開催している。ホームからは活動報告や状況報告をして、参加者からは意見やアドバイスを頂いている。	今後、2ヶ月に1回の開催に向け、行事と同時にしたり、議題を決めて開催する等、会議のあり方を工夫されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者との更なる連携や協力体制を望んでいるが、まだ整備されていない。	法人の担当者が報告や相談等のため行政へ出向き、担当者との関係を築くように努めている。ホームとしては、法人のから市の情報を聞いているが、今後は同行して関係を作りたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する全体での勉強会を開催したり、常に自分たちが行っている行為が、身体拘束になっていないかを確認しあっている。	身体拘束についての認識を共有する為に勉強会を開催している。日々のケアの中で言葉遣いや声のトーンにも気を配りながら行動制限、制止になっていないか振り返り常に話し合っている。安全の為にエレベーターはロックしているが家族の了承は得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修により、学ぶ機会を持ち面接時等で訪問する際には、留意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の様子や必要な情報を共有し、話し合いの機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な話し合いを実施し、契約後も不安や疑問点には敏速に対応するよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催している。(敬老会、新年会の行事後) 議事録を作成し御意見を反映できるようにしている。	面会時に直接聞いたり、行事の後の家族会でも意見や要望を聞いている。得られた意見や要望にはすぐに対応し、記録にも残している。家族会では、医師が医療について話したり、家族同士の交流もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議の際、意見交換を実施している。	月1回の法人グループホームの合同会議で事故、ヒヤリハットの報告をしているが、ホームでの会議は開いていない。職員から食中毒について勉強会したいとの提案で看護師参加で勉強会をする等、出された意見は反映させる様にしている。	各ユニット毎やホーム全体で会議を開き、職員間で活発な話し合いの場を設けると共に、意見、要望を聞く機会を持つ等検討されてははいかがでしょうか。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、人事考課表を記入してもらい、各自が目標を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会を、月1日行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡会に、定期的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用に際し、施設見学をして頂き、面接はご自宅へ訪問し御本人が緊張せずお話ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用にいたるまでに、書面等により情報の共有を図れるよう努めている。 事前面接の際にも、御家族の困っている事や不安、要望等を聴き関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際まず、現在の状態を把握し必要に応じて様々な介護サービスの説明を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様を人生の先輩と尊敬しながら、日々喜怒哀楽を共に感じれるような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に入居者様の御様子を報告させて頂き意見交換をし、入居者様を支えていける関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に馴染みの人に、面会に来て頂いたり、馴染みの場所へ出掛けられるよう企画し実施している。	自宅や行き付けの美容室、商店街、喫茶店に個別で行く支援を行っている。希望があれば公共交通機関を使って百貨店や同窓会にも行っている。通っていた教会の知人の訪問や兄弟、親戚の訪問もあり、これまでの人間関係や社会との繋がりを継続出来るよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士のコミュニケーションがスムーズに出来るように、職員は常に間に入り沢山の関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	介護サービス等についての相談、助言を必要に応じて、提供できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で、御本人の思いや希望を聞き取り、実現できるように努めている。	一人ひとりの生活歴を把握し、日々の関わりや会話の中から得た気づきや情報を思いの把握に繋げ、記録に残し職員間で共有している。思いの表出の困難な方には観察から検討して把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や馴染みに暮らし方等を御家族や御本人からお聞きし、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にお一人おひとりの一日の過ごしている様子や心身の状態、持っておられる力等を記録し職員全員で把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケースカンファレンスを開催し、必要に応じて主治医や関係して下さっている方にも参加して頂き、意見交換し御本人の意向に添った介護計画を作成している。	利用者、家族の意向を聞き、その人の言葉を用いて計画を作成している。具体的な内容も分かり易く書かれており、統一したケアに繋がっている。職員は、日々の様子や気づきを丁寧にケースに記録し、それを基にモニタリングを行っている。カンファレンスには医師、看護師等の参加があり意見を出し合い6ヶ月毎に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の様子をケース記録に残し、職員間での情報を共有しながら介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ既存のサービスに捉われず、御本人や御家族の状態に合わせた支援が出来るよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源としては、ボランティアや地域のふれあい喫茶等には参加しているが、まだまだ不足していると思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族と相談の上、入居者様や御家族の意向を尊重し、適切な医療処置が受けられるように努めている。	入居時にかかりつけ医の継続が出来る事を説明して、家族に主治医を決めてもらっている。提携医は2週間に1回、看護師の訪問は1週間に1回あり健康管理をしている。希望に応じて訪問マッサージも受けてもらっている。提携の医療機関とは24時間の連携がとられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師が来て下さるので、日々の様子や身体状況を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と連携を図り、情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様やご本人と早い段階で、終末期のあり方について話し合いを随時持ち、当事者でできる事、出来ない事を確認し合っています。又主治医や関係者にも方針の情報を共有しチームで支援できるようにしている。	看取りについてのホームの方針を入居時に説明している。時期が来れば、主治医や看護師、薬剤師等関係者もカンファレンスに参加し、話し合うこととしている。看取りの事例はないが、利用者や家族の希望に添うような看取りの支援が出来るよう取り組む考えである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月の勉強会で、応急手当等を学習する機会を作っている。又、参加できない職員には書面での閲覧を周知している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災報知機等の設備面や非常時の対応を職員に周知している。	年2回、消防署の指導の下、昼間と夜間の想定で避難訓練をしている。避難経路の確認や初期消火の方法を学んだり、消防署からアドバイスを受けている。スプリンクラーも設置済みである。	地域との協力体制を築けるように、運営推進会議の議題にのせ、地域住民に働きかけるきっかけを作られてはいいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様の人格を大切にし、尊敬の念を持って接し、プライバシーにも配慮している。	これまでの一人ひとりの生活歴を大切にし、今までの馴染みの話し方で対応したり、日々のケアの場面で、不快な言葉かけになっていないか気をつけている。又、一人ひとりのプライバシーに配慮し会話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者様が思いや希望を表せるようにコミュニケーションをしっかりと、説明を適宜行い自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のお一人おひとりのペースや生活のリズムを大切に充実した日々を過ごして頂ける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時お化粧をして頂いたり、華やかな事が好きな方には、アクセサリーや爪にマニキュアをして、その方らしいおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は、入居者様と職員が共同で行っている。食事は職員も入居者様と和やかな雰囲気で行い、後片付けも一緒に行っている。	食事の準備から後片付けの一連の流れの中で、利用者も役割を担っている。業者の福祉食メニューで材料を配達してもらっているが、希望でメニューを変えたり自家栽培の野菜も利用している。職員も一緒に同じ物を食べ楽しい時間を持っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時摂取量の確認をさせて頂き、栄養のバランスが取れるよう工夫をしている。水分摂取については、好きな物を提供したり、水分にむせ込みのある方はトロミ粉にてトロミをつけ飲用して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声掛けをし、必要に応じて歯科往診や受診をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンや習慣を活かし、さりげなくトイレの声掛けをし失禁の無いように支援している。	各居室にトイレがあり、サインや言葉から読み取りトイレに誘導している。安心感からパッドを使用されている方、リハビリパンツから布パンツへ移行できた方等、一人ひとりの様子に合わせた形態で、出来る限り自立できるように排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ラジオ体操や椅子に座っての体操をして頂いたり、こまめに水分補給をしている。また排便の有無を毎日確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望や体調に合わせての入浴支援をしている。	入浴は基本は週3回であるが、毎日でも可能で、2時間入浴を楽しむ利用者等、一人ひとりの希望や習慣を大切に支援している。菖蒲や柚子、ミカンの皮を入れたり、音楽をかけ入浴を楽しめるよう工夫している。重度化にも対応できるよう機械浴も設置されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、休息のとれる場所を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅管理指導による薬剤管理で、薬剤師にお薬の管理をして頂き、職員は各個人の服薬状況をチェックしている。 入居者様が服用しているお薬に関しての勉強会も徐々に開催している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	会話の中で「〇〇がしたいわー」と言われる時等は、出来るだけ願いを叶えられるようにしている。 入居者様から、「手伝おうか?」「やってあげようか?」と声をかけて頂けるような雰囲気気を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日や外出希望のある時は、散歩や近くの商店街に出かけている。 また、ご家族と相談しながら、趣味のサークルに参加して頂けるような企画の提案もしている。	公園や商店街、喫茶店に行く事は日常的であり、個別に対応している。本人の希望でダンスサークルに通ったり、車椅子でも電車やバスを使い、遠方にも出かけている。近くの公園でバーベキューを楽しんだり戸外で過ごせる機会を多く作るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりし、買物や近隣のスーパー等へ職員が付き添っている。 お小遣い帳の管理を行なっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族と相談しながら、御本人が希望される時に電話を使用して頂いたり、お手紙を記入される。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、季節に合った飾り付けをしたり、植物の鉢植えを置き季節感を感じていただけるようにしている。	明るいリビングは、毎日掃除をして清潔にしている。ソファや畳のコーナー等、好きな場所で寛ぐことが出来る。観葉植物を飾ったり、季節を感じる飾り付けが施されている。壁には行事や故郷の写真が貼られ、居心地の良い落ち着いた空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの壁際にベンチがあり、気の合った方とお話をされたり、ソファでテレビを見ながら一休みできる場所や畳で足を伸ばして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使い慣れた家具や写真を置いて落ち着いて過ごせる居室となっている。 職員は、家族と相談して居心地の良い部屋になるよう努めている。	洗面台とトイレが設置されているが、ベットやコタツ、布団、タンス等、持ち込みは自由である。学習机や趣味の品、好みの観葉植物等を置いて自由にレイアウトされている。職員と一緒に掃除をする事で居心地よい居室となっている。天気の良い日は布団を干している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に入居者様がわかりやすいように、名札や飾り付けをしご自分の居室がわかるよう工夫している。		